

大分建設新聞社

2020年1月1日号掲載

舗装施工技術の高精度化

ICT舗装の導入とドイツ製アスファルトフィニッシャー

舗装工事や土木工事を手掛け

る、杵築市山香町の日伸建設工業(株)(大庭浩司社長)は、国道や高速道路をはじめ、空港の滑走路や県道、市道の舗装工事を幅広く手掛けている。施工は県内をはじめ、福岡・熊本・宮崎・沖縄にも施工実績を残してきた。

昨年1月には、ICT(情報通信技術)を導入し、高精度で品質の高い舗装が可能となった。また、同年9月にはドイツ製のアスファルトフィニッシャーSUPER1803-3iを購入した。今年度、那覇空港の

舗装補修工事を行った。

従来の一般的なアスファルト舗装工事では、オペレーターがフィニッシャーの敷き均しの高さ調整を操作し施工していたが、ICTを導入したことで、3次元設計データを入力したICT建機へ、自動追尾機能搭載のTTS(トータルステーション)で計算した位置情報を無線にて送信し位置情報及び高さ情報を認識させ、ICT建機のフィニッシャーを設計通りの高さに自動制御させることが可能となった。さらに従来2人で測量を行うが、自動追尾機能搭載のTTSを使用し、1人で測量することで、人材不足の解消を図る。

また、従来の国産の重機は、アスファルト施工の最大幅が6mだが、ドイツ製の新しい同重機は、最大施工幅は8mで、施工量を増加させ、

工事の工期短縮などの効率化も図られる。さらに優れた舗装施工能力を兼ね備えており、平坦性向

上を図ることができる。

同社は、今後の工事も社員が一丸となり、総力の結集で新しい技術を取り入れて、高品質な工事を発注者に提供し、地域社会への貢献ができるように邁進していきたい。



問い合わせ

日伸建設工業(株)
杵築市山香町大字立石131-1
TEL 0977-76-2777
FAX 0977-76-2766